

# 「多」の用法についての考察

張 金艶\*

## A Study of the Use of“ DUO ”

ZHANG Jin-yan\*

キーワード：形容詞の多，数詞＋多＋助数詞，数詞＋助数詞＋多，多＋形容詞・動詞，形容詞・動詞＋多了

Key Words: “ DUO ” of an Adjective, Numbers +DUO +Measure Words, Numbers +Measure Words +DUO, DUO +Adjective・Verbs, Adjective・Verbs +DUO LE

### 1 はじめに

日本人の中国語を習得する過程において、「多」は初級の早い段階で導入されるのが普通である。にもかかわらず、時には「多的人」となり、時には「很多人」と訳さなければいけなくなり、さらに「多人」という言い方もないわけでもない。しかし、「苹果多」は言えるのに対して、「多苹果」は言わない。「十多斤」「十斤多」や「多吃」「吃多了」はどの言い方でもあるが、意味が異なってくる。中国語母語話者が普段特に意識せず使い分けしている「多」のこうした用法に戸惑いを感じる日本人の学習者は少なくないだろう。

この論文においては、一文字の「多」だけで果たしてどんなとき連体修飾語として名詞を修飾できるのか、または、語順を入れ替えるだけでも、言える場合とそうでない場合が明らかに分かっているのは一体なぜだろうかといった「多」の用法を通じて、日本語の「多い」と中国語の「多」の用法における類似点や相違点を取り上げるとともに、日本人が中国語を学習していく上で、語順の重要性に着目する必要性を指摘する。

### 2 形容詞としての「多」

形容詞としての「多」の用法は中国語を習得していく上で、ほとんどの場合初級の早い段階で導入される。にもかかわらず、「多」の誤用がよく見られる。それはどういった誤用なのか、ある日本人学習者に作られた簡単な文を見てみよう。

(1) 我有多的朋友。

この文を見たら、学習者が「私は多く(たくさん)の友達がいる」を言おうとしていることは伝

---

\*国際交流センター

わってくるが、しかし、母語話者だったら、このような言い方はしない。「形容詞+名詞」のパターンは一文字の形容詞が名詞を修飾する際に使われるのは事実であり、名詞の性質・属性・状態を強調する場合は「形容詞+名詞」ではなく、「形容詞+的+名詞」のパターンを使ったほうが適切であるとされている。学習者は確かにこうしたルールに基づいて文を作ったと思うが、しかし、文としてはすわりが悪いといわざるを得ない。上の文を次のように書き直したら

(2) 我有很多(的)朋友。

[私は多く(おおぜい・たくさん)の友達がいる]

と自然な中国語になる。もちろん、この「很」はただ語調を整えるために加えられるものであり、強く発音しない限り、通常「とても」の意味を持たないというふうに解釈するのが普通である。語調を整えるとはいえ、「好」と「坏」のような形容詞の場合は「好朋友」と「坏朋友」だけでも言えるのに、「多朋友」は言えないのは考えにくい。したがって、「很」の力を借りて語調を整えるほかに、また「多」という言葉自体に何か特殊性があるのではないかと考えられる。

「多」は形容詞であるが、しかし、「好」と「坏」のような形容詞と異なっている。例えば、「好朋友」と「坏朋友」というなら、「好」と「坏」はその友達の性質がよいか、悪いかを表している。すなわち、「好」と「坏」は「朋友」を性質で限定することができる。しかし、「多」はものの数量であって、修飾する名詞の性質・属性・状態を表すことができない。そのため、単文の中では「多」だけで名詞を修飾できず、「很」または「许」のような程度を表す修飾語を伴ってはじめて名詞を修飾できる。この場合の「的」があってもなくても文の意味は変わらないのである。形容詞は名詞を修飾するとき、「的」がどんな場合必要なのか、どんな場合あってもなくてもいいのか、形容詞によって異なるが、ここでは深く検討しないことにした。このほかにも、「多」は「这么(こんなに)」のような修飾語と組み合わせて名詞を修飾することもできる。このとき、話し手の驚き・嘆き・感嘆などの感情が込められている。

(3) 你看，我有这么多的邮票。

[ほら、見て、こんなに多く(たくさん)の切手を持っているのよ。]

(4) 有那么多(的)钱，还不满足？

[あんなに多く(たくさん)のお金を持っているなんて、まだ満足しないの？]

このほかにも「多」と組み合わせて名詞を修飾できる程度を表す副詞や指示代名詞などがあるが、ここで省略することにした。名詞を修飾する点においては、日本語の「多い」の用法と類似点があるのではないかと考えられる。「多い学生が参加した」の言い方は不適切であることはいうまでもない。この文を正しく直したら、「多い」の代わりにその連用形「多く」に助詞「の」をくっつけ、「多く(たくさん)の学生が参加した」にしたほうが適切である。日本語は膠着語に属する。動詞や形容詞などの語尾に変化があり、自立語の後にくっついてその自立語が文の中での位置づけを表す付属語も発達している。そのため、形容詞の「多い」は「多くの」の形で名詞を修飾することができるようになった。これに対して、中国語は孤立語なので、まず日本語のように単語には語尾の変化などが無い。その代わりに「多」の前に「很」などのような程度を表す修飾語を付け加えることによって、はじめて名詞を修飾することができたとも言えよう。

日本語の「多い」と同じく中国語の「多」も直接に名詞を修飾できず、「很」や「许(とても)」、「这么(こんなに)」のような程度を表す修飾語を伴ってはじめて名詞を修飾できるわけである。それでは、次の例はどうだろう。

(5) 水多的地方

## [水の多いところ]

## (6) 人多的时候

## [人の多いとき]

(5)と(6)は「多」が名詞の前に来ている。「多」だけでは名詞を修飾できないというルールによって、これらの文が非文となるが、しかしよく考えたら、(5)と(6)の「多」はそれぞれ「地方」「时候」の数量的特徴を表しているのではなく、(5)の「多」は「水」の、(6)の「多」は「人」の数量的特徴を表しており、「水多」「人多」という「主谓词组（主述連語）」を構成している。そして、この「主谓词组（主述連語）」全体が名詞の「地方」「时候」を修飾しているのである。すなわち、「多」は直接に「地方」「时候」を修飾しているのではなく、「水」「人」という主語の述語として位置づけられている。したがって、「多」の前に「很」や「许（とても）」、「这么（こんなに）」のような修飾語を伴う必要もなくなる。ただし、「主谓词组（主述連語）」を構成した「水多」「人多」はその後に「的」をつけ、名詞の「地方」「时候」を修飾することができる。「水多的地方」「人多的时候」の言い方ができるが、「水多地方」「人多时候」のような言い方はない。しかし、「人多时(人が多いとき)」がある。中国語の中で、どんな漢字と漢字がどんな場合一緒に使われていると、一番安定しているのかは不思議なことである。

「多」は「很」や「许（とても）」、「这么（こんなに）」のような修飾語を伴わなければ、通常単独で名詞を修飾できないと述べておいたが、しかし、「多」は単独で名詞を修飾する用法がないわけでもない。それはある種の修飾文を伴えば名詞を修飾することができる。

## (7) 这里的降水量根据年份的不同而不同, 多的时候有 2000 毫米。

[この降水量は年によって違い、多いときは2000ミリメートルもある]

## (8) 在这里工作的人年收入多少不一, 多的人能达到 50 万左右。

[ここで働く人の年収は人によって違い、多い人は50万円にも達する]

こういう場合、「多的时候有2000毫米」や「多的人能达到50万左右」のような単文だけでは、文として成立できることが考えにくい。「多的候有2000毫米」や「多的人能达到50万左右」という言い方ができたのはこれらの文が複文にあるからである。そして、その前の文は全体的にまとめているのに対して、「多的～」の文は前の文の一つの例として、付け加えられていると考えられる。

形容詞「多」の上の用法をまとめてみたら、三つのパターンがある。

一つ目は「很多(的)朋友」のように、「多」が修飾語を伴って、名詞を修飾するのである。

二つ目は「多」がその前にある言葉と「主谓词组(主述連語)」を構成し、「水多的地方」のような文を作る。

三つ目は複文の場合、前の文のまとめに対して、「多的～」の文は前の文の例として加えられている。ただし、「的」は一つ目以外の用法では、省略されてはいけぬのである。

上の例文とその訳をまとめてみたら、同じ傾向が見えてくるのではないかと思われる。「很多朋友」のように、「多」だけで名詞を修飾できず、「很」のような修飾語を伴ってはじめて名詞を修飾できる場合、日本語の「多く(大勢・たくさん)」に訳されている。

## (9) 很多人都来了。[多く(たくさん)の人が来た]

## (10) 他读了很多书。[彼は多く(たくさん)の本を読んだ]

一方、これに対して、「人多的时候」「这里的降水量根据年份的不同而不同, 多的时候有2000毫米」のように、「～多的+名詞」「多的+名詞」という形だと、日本語の「多い」に訳されるのが妥当であろう。

- (11) 客人多的时候, 连吃饭的时间都没有。

[客が多いとき, 食事を取る時間さえもないほど忙しい]

- (12) 今天晚上会有全国范围的降雪, 多的地方预计会达到 30 厘米。

[今夜, 全国的に雪が降るでしょう。多いところでは30センチ積もる見込みです]

そして, はじめのところに[多人]という言い方もあると書いてあるが, 以上説明した限り, そう  
いう言い方が果たしてあるのかについて疑問を抱き始めた人もあると思う。まず, 以下の例を見て  
みよう。

- |      | 中国語  | 日本語        |
|------|------|------------|
| (13) | 多年   | 長年         |
| (14) | 多时   | 長い間        |
| (15) | 多日   | 何日もの間, 長い間 |
| (16) | 多才多艺 | 多芸多才       |
| (17) | 多灾多难 | 災い・災難が多い   |
| (18) | 多种多样 | 多種多様       |

- |      |    |             |
|------|----|-------------|
| (19) | 多嘴 | 余計に口を出す     |
| (20) | 多心 | 気を回す(余計に疑う) |

(13)~(20)の例を見れば, どれも「多+名詞」の形である。しかし, 同じ「多+名詞」の形である  
とは言え, 意味が大きく分かれている。(13)~(18)の「多」は「多い・多く」の意味であり, こ  
れに対して, (19)~(20)は「口が多い」, 「心が多い」または「多くの口」, 「多くの心」の意味では  
なく, 「余計に・不必要」の意味である。

- (21) 多日不见, 一向可好?  
[長い間お目にかかりませんでした, お変わりがありませんか]

- (22) 还是告诉他一下好, 要不然他又多心了。  
[彼に余計に疑われないように, やっぱり一言言っておいた方がいい]

このように, 中国語には「多+名詞」のような言い方がある。ただし, こういった言い方は固有  
表現あるいはそれに近い表現に限られている。

### 3 「数詞+多+助数詞」「数詞+助数詞+多」

中国語の「多」は以上の用法だけではなく, 数詞と助数詞と組み合わせ使うこともできる。日本  
語の「十年余り」でも「一年余り」でも数詞と助数詞の後に「余り」をくっつけたら, 正しい日本  
語となるが, 中国語の場合はひとごと数詞と助数詞と組み合わせるといっても, 「1年多」が言え  
るが, 語順を入れ替えただけの「1多年」は言わない。これに対して, 「10多斤」と「10斤多」は  
どれでも言える。それでは, 「多」は数詞と助数詞と組み合わせ使われるとき, 何か制限があるの  
か, 語順の入れ替えることによって意味がどう変わっていくのかについて分析をしたい。

- (23) 十 多 层 [10数階]  
数詞 助数詞

- (24) 二十 多 次 [20回余り]  
数詞 助数詞

- (25) 四十 多 个 (小时) 「40時間余り」  
           数詞          助数詞
- (26) × 一 多 个 (月) [1ヶ月余り]  
           数詞          助数詞
- (27) × 两 多 个 (小时) [2時間余り]  
           数詞          助数詞

(23)～(27)の五つの例はどれでも大まかな概念を表すが、(23)～(25)の三つは言えるのに、これらに対して、(26)～(27)の二つは間違っているのがなぜだろうか。以上の例を見れば、中にある共通点が見えてくる。「数詞+多+助数詞」の場合は「数詞」は必ず「10, 20, 30, …」のような数字でなければ成立しない。すなわち、下一桁の数字が「0」のときは「数詞+多+助数詞」というパターンを取る。周知のように中国語の助数詞は数が多い。よく使われる助数詞にしても100くらいあると言われている。中では「水、酒、物、事」などのような物や事を数えるときに使われるのが「点(すこし)」や「些(わずか)」のような助数詞だったら、「一点水…」や「一些水…」の用法しかない。したがって、「十多点水…」や「十多些水」の言い方もないのは言うまでもない。これ以外の助数詞はだいたい「10, 20, 30, …+多+助数詞」という用法がある。

「四十時間あまり」は中国語に訳されると、「40多个小时」となり、「二時間あまり」は中国語の「2多个小时」と訳されてはいけないうのが分かったが、それでは、「二時間あまり」をどういうふうに中国語に訳したらいいだろうかを見てみよう。

- (28) 一 个 多月 [1ヶ月余り]  
           数詞          助数詞
- (29) 二 个 多小时 [2時間余り]  
           数詞          助数詞
- (30) 五 年 多 「5年余り」  
           数詞          助数詞

これらをまとめてみると、「1～9, 11～19, …」のような数字の場合は「数詞+助数詞+多」でなければならないのがわかるのであろう。つまり、日本語の場合はすべて「数詞+助数詞+余り」というルールに基づけばいいのであるが、一方、中国語は「数詞」によって「多」の位置が決められている。これはだいたい二つのパターンに分けられる。

一つは「10, 20, 30…」のような下一桁の数字が「0」の場合だったら、「数詞+多+助数詞」という形を取る。

もう一つはそれ以外の数字、すなわち「1～9, 11～19…」のような数字の場合だったら、「数詞+助数詞+多」という形を取る。ただし、「一个多(小时)」は言えるが、「一个多人」は言えない。これは「一个多(小时)」は1時間が「多」を付け加えたことによって「1時間5, 10, 13分…」といった意味合いを持つことになれる。しかし、「一个多人」が成立できない理由という点、意外と簡単な論理である。1人を増やすと二人となり、もう一人を増やせば3人となる。1人は5分の一とかいう形で増加できないからである。

上の二つのパターンに沿って、いうまでもなく「一多年」のような言い方はあり得ない。そして、さきほど数字が10, 20…の場合、「数詞+多+助数詞」に当てはまるが、しかし、何でも例外がある。もし数字が10で、助数詞が度量衡を表すものである場合、「10+(度量衡を表す)助数詞+多」の形でもいいのである。ただし、語順によって意味も大きく変わる。

- (31) a 十多斤水果 [10斤余りの果物]  
 b 十斤多水果 [10斤以上, 11斤未満の果物]

(31) aの「十多斤」は確かに10斤以上であるが、しかし、実際の重さは「10.5斤」や「11,12斤...」の可能性もあり、そうすると「十多斤」はあくまでも「果物」の重さについての大まかな予測である。(31) bも同じく10斤以上は言うまでもない。異なっているのは(31) bは「果物」の重さについての予測の範囲が(31) aより大幅に狭くなり、11斤を超える確率がほとんどゼロに近いといってもよいだろう。

度量衡を表す助数詞は数字が10だったら、「10+助数詞(度量衡を表す)+多」の形もあるが、それでは、度量衡を表す助数詞以外の場合、果たして「10+助数詞+多」のような言い方、ひいては「20,30...+助数詞+多」のような言い方はできないのだろうか。

(王さんと李さんは高さんが北京で何年間生活していたのかを話しているときの会話)

(32)会話A

- 小王: 小高在北京生活了多少年? [高さん北京で何年間生活していましたか]  
 小李: 十多年吧。 [10年余りだろう]

会話B

- 小王: 小高在北京生活了多少年? [高さん北京で何年間生活していましたか]  
 小李: 十年, 不, 十年多, [10年, いや, 10年より多い。多分14, 5年  
 大概有十四, 五年吧。 あるだろう。]

(32)の会話AとBを見たら、状況が分かるだろう。相手に「小高在北京生活了多少年?」と聞かれたら、すぐ「十多年」で答えられるのに対して、「十年多」で答えられない。一方のBでは、「小高在北京生活了多少年?」という質問に対して、具体的に「十年」と答えた。しかし、よく考えてみたら、実際北京での生活年数は答えた「十年」より長いということに気づき、いったん「十年」を否定して、それより長いと改めて情報を提供するときに「十年多, ...」が使えると考えられる。こうして類推したら「20,30...+助数詞+多」のような言い方もある。例を省略する。

以上は「数詞+多+助数詞」と「数詞+助数詞+多」について分析しておいた。これらは「多」が数詞と助数詞の間あるいは数詞と助数詞の後に来るものであるが、「多」は数詞と助数詞の前に来ることもあるだろうか。次の例を見てみよう。

(33)会話

- 小王: 那个班多少人? [あのクラスは何人?]  
 小李: 五十人 [50人]  
 小王: 这个班多少人? [このクラスは?]  
 小李: 五十一人 [51人]  
 小王: 那, 这个班多一个人。 [それじゃ、このクラスは1人多いですね]

(34) 八个人十个苹果, 一人一个的话, 多两个。

[8人に対してりんごが10あり, 1人に1個ずつだったら, 2個余っている]

「多」の位置を変えて数詞の前に持ってくると、「多」の後に来る量や数字は他と比べ、または決まった量や数字より多い分や余っている分を表しているのである。そうすると、(33)は「このクラスはあのクラスと比べたらあのクラスより1人多い」という意味であり、(34)は「10個のりんごが8人に1個ずつ配るなら、2個あまっている」という意味を表している。日本語の場合は「1人

多い」や「2個多い(余る)」の語順であるが、中国語のこの場合は数量補語という。すなわち「一個人」と「两个」は「多」の補語となり、「多」の後に置かれ、どのくらいの量や数が多いのかを具体的に説明しているわけである。

## 4 形容詞や動詞との組み合わせ

「多」は形容詞・動詞などと組み合わせ使うこともできる。そして、形容詞・動詞との位置関係の違いによって意味もだいぶ異なっている。

### 4.1 「多 + 形容詞」と「形容詞 + 多了」

#### 4.1.1 「多 + 形容詞」

(35) 你看，这样有多好！

[ほら，こうしたらなんとすばらしいことか]

(36) 我也能去该多好！

[私もいけたら，どんなにいいだろう]

(37) 你家离学校有多远？

[お宅は(距離的には)学校からどのくらいですか。]

(38) 他家有多大？

[彼の家はどのくらいの広さですか。]

(39) 他多好也不行。

[彼はいくら優秀でもだめです]

(40) 多难也干。

[どんなに難しくてもやる]

(35)~(40)の文の「多」はすべて副詞とはいえ、感嘆文か、疑問文か、それとも任意・無条件・無制限の程度をさす文かによって意味も大きく変わってくる。(35)と(36)は感嘆文で、文の中の「多」は程度の甚だしいことを表し、「なんと、なんと、どんなに」の意味をもつ。(37)と(38)は疑問文で、「多」は程度を問う「どれだけ、どれほど」の意味をもつ。一番理解しにくいのは(39)(40)のような文であろう。「多」は「いくら、どんなに」の意味をもち、どれでも無条件で「不行」「干」という結果を導き出す。

#### 4.1.2 「形容詞 + 多了」

「多」は形容詞と組み合わせるとき、形容詞の前に来ることができるほか、「(A比B)形容詞 + 多了」という形の程度補語もある。比較の結果差が大きいことを表す。「ずっと、はるかに(なった)」、「これはよく何かと比べたら、よっぽど~」の意味である。このほかに「形容詞 + 得多」も同じ意味を表す。

(41) 今天比昨天热多了。

[今日は昨日よりよっぽど暑い。]

(42) 会話

小李：这件衣服多少钱？ [この服はいくらですか。]

小王：150 [150元]

小李：那、便宜多了。 [じゃ、よっぽど安くなったわね。]

## 4.2 「多+動詞」と「動詞+多了」

### 4.2.1 「多+動詞」

(43) 学外语要多听、多说才能提高。

[外国語はたくさん聞いたり、話したりしないと、上達できない]

(44) 多运动对身体好。

[よく運動するのは体にいい]

(43)と(44)の「多」は動詞の前に置かれ、その動作をよく(常に・頻繁に)行うことを表す。

### 4.2.2 「動詞+多了」

これは「多+動詞」と逆に、「動詞+多了」の形を取っているだけで、意味は大きく変わる。「多+動詞」はその動作がいいかどうかは別だが、よく(常に・頻繁に)行われているというところに重点が置かれている。一方では、「動詞+多了」も程度補語であり、日本語に訳されると「～過ぎた」となる。つまり、その動作がよく(常に・頻繁に)行われているところに重点を置くのではなく、程度を強調したい。そして、マイナスの意味合いを持つことのほうが普通である。

(45) 晚饭吃多了, 对身体不好。

[晚ご飯は食べすぎたら、体によくはない]

(46) 喝多了。

[飲みすぎた]

「多吃」は「吃」という動作が頻繁に行われているところを強調し、「どんどん食べる」の意味である。これに対して「吃多了」は「吃」という動作が「やりすぎた」という程度が強調され、「食べ過ぎた」の意味となり、そして、マイナスのイメージが強い。

以上の例で分かったのが[多]が動詞・形容詞の前それとも後に置かれるかによって、[多]の意味が大きく変わってくるだけではなく、文の意味までも大きく左右することである。したがって、いかに日本人の中国語学習者にこうした語順の違いによって意味が大きく変わるという中国語の特徴を提示していくのかも非常に重要ではないかと考えられる。

## 5 まとめ

これまで、中国語の[多]を取り上げ、日本語の「多い」と比較して分析してきた。特に[多い]が「多くの」の形で名詞を修飾するのに対して、「多」が「很」などの程度を表す修飾語を伴って名詞を修飾することは非常に興味深いことである。もちろんこのときの「很」が強く発音しないかぎり、ただ語調を整える役割を果たしているだけとされている。どんな時、どんな言葉はこうした語調を整える必要があるのか、非常に大きな課題が残されている。「多」についてもっと検討する余地のあるところが多く残っているが、本稿ではそれらをなしえなかった。それらを今後の課題にしたい。

そして、ここで問題に取り上げた「多」が数詞・助数詞などとの位置関係の入れ替えることによって文の意味まで影響するという中国語における語順の重要性を立証した。日本語の場合は、動詞や形容詞などの語尾に変化があり、付属語も発達している。動詞や形容詞などの語尾の変化や名詞や動詞などの自立語の後にくっついている付属語の働きによって、自立語同士の文法的関係を表すことができる。一方、中国語には、単語に語形変化がなく、その文法的関係は前置詞など虚詞の力を借りる部分もあるが、主として語順に頼っている。日本語と中国語の文法上のこうした基本的な相



違点は今後日本の中国語教育において早い段階から導入していく必要があると考えられる。

## 参考文献

- 罗景春 竹島毅(2005)『中国語はじめの一步』 白水社  
劉穎 (2002)『二年生のコミュニケーション中国語』 白水社  
李徳津 程美珍(2003)『外国人実用漢語語法』華語教学出版社  
來思平 相原茂(1993)『日本人の中国語誤用54例』 東方書店  
新屋映子 姫野伴子 守屋三千代(1999)『日本語教科書の落とし穴』アルク  
遠藤紹徳 武吉次朗(1990)『新編・東方中国語講座』第4巻 東方書店

(2006年1月10日受付, 2006年1月31日受理)